



令和三年度総会報告



令和三年度全国足利氏ゆかりの会総会については、京都府亀岡市開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、総会・懇親会、移動を伴う奉告祭やエクスカーシヨンの実施は困難であると判断し、令和二年度同様、「書面決議」による開催となりました。議案第1号「役員改選について（案）」、第2号「令和二年度事業結果について」、第3号「令和二年度収支決算について」、第4号「令和三年度事業計画（案）」、第5号「令和三年度収支予算（案）」、については、原案のとおり、提出書面（全会一致）により承認、決定されました。

また、令和三年度総会開催地についても、亀岡市様に次年度スライド開催について了承を賜りましたので、併せて書面に

て報告させていただきました。そして、令和三年度全国足利氏ゆかりの会総会（書面決議）開催に際し、各会員様よりお寄せいただいたご意見等について紹介いたします。

会員からのご意見

① ホームページ更新料6万6000円は高すぎ。無料にして事務局が必要な情報を加えればよい。

② 本年、急に、タオルハンカチが多量に送られてきて戸惑いました。次年度支出は、本年のふりかえりを経て、決断していただきたいと感じています。

お寄せいただいたご意見を踏まえ

（事務局からのご報告）

このたびは貴重なご意見等を賜りありがとうございます。お寄せいただきましたご意見を

踏まえまして、事務局から左記のとおりご報告を申し上げます。と存じます。

まず、①のご指摘につきまして、今回はパンフレットデータ差し替えに伴い、ホームページデータを大きく差し替えたことから、例年よりも経費が増えた結果となりました。

また、ホームページを維持していくためには、レンタルサーバー管理料という固定費も継続的に発生いたします。今後につきましては、ホームページの維持経費及び新規SNS等の運用も含めて、頂戴いたしましたご意見を踏まえ、執行予算の適宜見直しを行いながら会計処理を進めてまいりたいと存じます。

また、②のご指摘につきまして、設立35回記念として各会員の皆様に当会のPR活動用としてノベルティを作成いたしました。前年度の総会も書面決議開催となり、各会員の皆様へ作成の経過や報告等が十分に引き届かない面がありましたこと

につきまして、お詫び申し上げます。

今後につきましても、事業計画の詳細や進捗状況等の報告に努めてまいりたいと存じます。引き続き当会の運営につきまして、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

情報提供



2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送に合わせて、その舞台である鎌倉市に大河ドラマの世界観が楽しめる大河ドラマ館が開館中。ぜひご来館ください。

足利氏は、源頼朝と同じ源氏の棟梁源義家の子孫にあたり、足利氏2代目義兼は源平合戦以降、頼朝に従って平氏追討や奥州合戦で活躍し、鎌倉幕府の樹立に貢献し、鎌倉殿こと源頼朝を支える有力御家人となりました。足利氏三代義氏も北条氏の側近として鎌倉幕府を支えていました。

このようなことから、当会としても、今回の大河ドラマに注目です。



大河ドラマ館 外観

「鎌倉殿の13人大河ドラマ館」

〈期間〉

2022年3月1日(火)～
2023年1月9日(月・祝)

〈開館時間〉

午前9時30分～午後5時
(最終入館 午後4時30分)

*鶴岡八幡宮の祭事等に合わせ
て変動する場合があります。

〈住所〉

神奈川県鎌倉市雪ノ下2の1の53
鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム
【鶴岡八幡宮境内】

〈休館日〉

無休(展示替え休館日除く)

〈料金〉

大人 1000円(高校生以上)
小人 500円(小・中学生)

〈割引対象者〉

身体障害者手帳、療育手帳、
精神障害者保健福祉手帳を所持
されている方

〈無料対象者〉

小学生未満の未就学児、右記障
害者手帳所持者の介護者1名

*大河ドラマ館入館時にお渡し
するパンフレットの提示で鎌倉
国宝館・鎌倉歴史文化交流館へ、

平常展 各大人400円

各小人150円

2022年4月1日現在

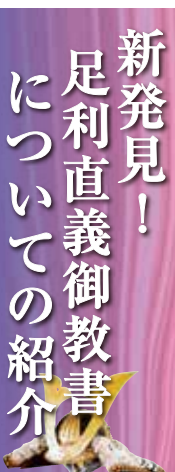
各1回無料で入場できます。

(2023年3月31日まで)

「鎌倉殿の13人大河ドラマ館
ホームページ」は、
こちらのQRコードから。



大河ドラマ館 内観



室町幕府が成立した当初、将

軍足利尊氏が守護の任免、恩賞
の充行など武士を統率する軍事
的な支配権を握り、弟直義は所
領の安堵や裁判などの政務を担
った。つまり、幕政は尊氏と直
義の二頭政治として共同で運営
された。

しかし、次第に尊氏の執事高
師直と直義との対立が表面化し、

室町幕府を尊氏・直義派に分裂
させた。ついには観応元年(1
350)10月、両派は武力衝突
に及んだ(観応の擾乱)。翌2
年2月には、尊氏・師直が摂津
(兵庫県)打出浜合戦に敗れて
直義と講和したが、師直ら高一
族は直義派によって殺害された。
7月末以降、尊氏・直義兄弟は
再び決裂し、尊氏は駿河(静岡
県)薩埵山で直義を破り、直義
は降伏した。

最近、観応の擾乱期に直義が
発給した文書が新たに発見され
た。観応2年5月12日付で直義
が自派の畠山義深を尾張(愛知
県)守護に任じた守護補任状で
ある。尾張守護は、義深以前は
高師直の兄弟師泰が在職し、観
応2年10月以降には土岐頼康が
在職していたことが確認される。
通説では、師泰が直義派に殺
害されて以降の尾張守護は同じ
く尊氏派の頼康が務めたとされ
る。しかし、今回の発見で、尾
張守護には師泰と頼康との間に
直義派の畠山義深が就任してい